

桜蔭俳話会 五月句会 (第三七五回)

令和元年五月十九日 (日)

【原句】

雨上りハワイの虹が見える丘

眞壽

【添削案】

雨上がりナポリの虹の見える丘

【原句】
薔薇の香や初恋の日を遠くして
【添削案】
薔薇の香や初恋の日の遠くあり

友子

【原句】

薔薇の門見えぬドレスの裾つまみ

秀夫

【添削案】

薔薇の門見えぬドレスの翻る

【原句】
マチュピチの遺跡を囲み草茂
【添削案】
マチュピチの遺跡はるかに草茂る

眞壽

【添削案】

【原句】
薔薇に酔ふ二人錯覚の愛生まる
【添削案】
薔薇に酔ふ錯覚の愛生まれけり

友子

【原句】

クルーズ船の予約を入れる夏初め

眞壽

【添削案】

クルーズの予約入れけり夏初め

【原句】
青葉闇英字が偲ぶ御魂あり
【添削案】
青葉闇英字に偲ぶ御魂あり

【原句】

【原句】

海を向く異人の墓標薄暑光

友子

【添削案】

海向きし異人の墓標薄暑光

【原句】
ゲートル座のレンガ隠るるほどの薔薇
【添削案】
ゲートル座のレンガ隠して薔薇白し

友子

【原句】

水彩の空を自在に黒い蟻

秀夫

【添削案】

水彩の空を自在に蟻の点

【原句】
十字抱く墓石見守る姫女苑
【添削案】
十字抱く墓石のひとつ姫女苑

秀夫

【原句】

園丁の施肥の豊かに薔薇開ける

明美

【添削案】

園丁のデザイン豊か薔薇開くる

【原句】
行きたいなオーストラリアに風薫る
【添削案】
行きたしはオーストラリア風薫る

眞壽

【原句】

舷に凭れてゐたるアロハかな

明美

【添削案】

舷側に呟く一人アロハかな

【原句】
西洋館の色どり豊か夏の色
【添削案】
西洋館の色どり豊か夏の空

幸

【原句】

教会の美しき葬儀や春別れ

幸

【添削案】

教会の美しき葬儀や夏の夕

友子

【添削案】

薔薇の香 ninininini oboヤワー港の見える丘

作家たちの生き方さまざま春秋

幸

フランス山の開港の史や緑さす

友子

筆を手にバラの香さわやか吟行日
邦子

夏たつや外人墓地の風の色

邦子

初夏の海向うにありしラスベガス
眞壽

薔園の間こえる言葉多種多様

邦子

文学館へ霧笛橋超え若葉風

友子

ナホトカの航路はるけし夏の海

幸

薔薇に顔寄せて自撮りの腕伸ばす
明美

薔薇園やポーズの犬の撮影会

友子

ナイル河舟から仰ぐ夏の星

眞壽

緑陰に入れば憩へる吟行日

邦子

倉庫の奥へ小麦の袋あまた入る

明美

着岸の白き水兵クルーズ船

幸

チューブから絵具絞り出し夏の花
秀夫

深紅の薔薇を捉へしスマホかな

明美

山手墓地の生麦事件や花満開

幸

夏日の船波をけたてて遠ざかる 眞壽